

こども病院のまわりの桜はきょう満開でした。日本人は桜の可憐な花びらがことさら好きです。冬の寒さにじっと耐えた後につぼみが膨らむ。やがて花開き満開になる。そして一気に散っていく。その散り際の良さも好きな要因のひとつかもしれません。

「明日ありと 思う心の あだ桜 夜半に嵐の  
吹かぬものかは」

親鸞上人が詠んだ詩です。

桜は明日も咲いているからあした見に行こうと  
思っていると夜中に春の嵐が吹いて散ってしまう  
かもしれない。自分も明日を当てにせず  
に今できることは今しておこう。という  
意味でしょうか。

国会議事堂周辺の桜も満開でした。この桜小淵  
総理は見る事ができません。ついこの間まで  
7月サミットに向け意欲満々だった総理も突然  
の病魔に倒れました。まさに政界の一寸先は闇。  
人間も同じです。

だからこそ今に感謝し、今を精一杯生きなければ  
いけない。

桜の花を見ているとそんな思いがします。

< 第 5 8 回 ほほえみの会 >

4月に血液腫瘍科に配属された寺島先生と堀越先生、それに会員  
4人が参加しました。

寺島先生はこれまで2年間院内で各科を研修され希望されて血液  
腫瘍科に来られたとのこと。

今回は治療を終えた方、終えようとしている方が集まり予後の話  
題が中心となりました。

末梢血移植をしてから2年半、5才になった。病気の再発が気にな  
るが、一方で身長伸びも気になり始めた。

今身長の伸びは年に1センチ。同い年の子に比べると小さい。

今後成長ホルモンを打った方がいいだろうか。

先生からは乳児の骨髄移植はどうしても身長の伸びが悪くなる。  
成長ホルモンをいつ頃から投与したらいいのかは医師の間でも議  
論になるが結論は出ないとのこと。

成長ホルモン投与は検査が大変なこともある上に、家で毎日注射  
を打たなければならず、本人が身長を気にしだす頃、また自分で  
注射を打てる年齢が良いのではないかとのお話でした。

また小学校4年の時から打っている方は、それまで年に1センチ  
の身長の伸びが注射を始めた2年間で16センチ伸びた。もっと  
早く始めれば良かったとも思うがリスクもあるし...とのことでした。

6月は総会です。

今年「小児がんを克服して現在ソーシャルワーカーとして活  
躍」されている方がいるそうですのでその方のお話と「最新の医  
療」について先生にお話ししていただこうと思っています。

子どもの面倒を見ていただくボランティアの方を今回もお願いす  
る予定ですので皆さんご参加下さい。

総会は6月11日(日) 時からの予定です。

次回は 5月14日(日) 時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一

E